

社会福祉法人健康の森学園 平成28年度事業報告

はじめに

運営については、社会福祉法人の使命を自覚し、共生社会の実現をめざし地域社会との連携を深める中で、開かれた活力のある施設に向けて運営を行った。また、利用者の地域生活への移行を進める上では、能力開発と人間性・社会性の養成に努めるとともに、自立と社会参加への意欲を高めて、主体的に活動できるように支援した。

1 理事及び監事

平成29年3月31日現在

役 職	氏 名	当初就任日	備 考
理事長	岡 田 壽	H22. 12. 24	
理事	竹 田 人 士	H28. 5. 18	
理事	福 岡 孝 美	H27. 5. 27	
理事	中 川 初 美	H15. 6. 1	
理事	長 江 俊 忠	H17. 6. 1	
理事	真 鍋 衛	H20. 4. 1	理事長職務代理者
監事	浅 井 郁 三	H19. 4. 1	
監事	岡 正 洋	H21. 4. 1	退任 H29. 3. 31

(敬称略 アイウエオ順)

2 評議員

平成29年3月31日現在

役 職	氏 名	当初就任日	備 考
評議員	石 垣 正 夫	H16. 3. 24	死亡 H28. 11. 9
評議員	岡 田 壽	H22. 12. 24	
評議員	大 原 天 津 夫	H16. 3. 24	
評議員	大 前 元 樹	H22. 3. 24	
評議員	公 文 裕 巳	H28. 3. 24	
評議員	小 原 安 子	H16. 3. 24	
評議員	竹 元 武 士	H16. 3. 24	
評議員	中 川 初 美	H16. 3. 24	

評議員	長江俊忠	H17.6.1	
評議員	福岡孝美	H27.5.27	
評議員	藤野浩吉	H16.3.24	退任 H29.3.31
評議員	真鍋衛	H16.3.24	
評議員	山田浩久	H20.3.24	

(敬称略 アイウエオ順)

### 3 理事・評議員会

開催日	議案
平成28年5月18日 出席者 評議員 11名 理事 6名 監事 2名	第1号議案 平成27年度事業報告及び収支決算について 第2号議案 アンテナショップの開設について 第3号議案 第三者委員の交替について
平成28年12月21日 出席者 評議員 11名 理事 6名 監事 2名	第1号議案 平成28年度の収支補正予算について 第2号議案 社会福祉法人制度改革に伴う定款変更について 第3号議案 社会福祉法人健康の森学園 評議員選任・解任委員会 運営細則について 第4号議案 社会福祉法人健康の森学園 評議員選任・解任委員の 選任について 第5号議案 福祉サービス事業の新設について
平成29年3月16日 出席者 評議員 12名 理事 6名	第1号議案 所轄庁変更に係る定款変更について 第2号議案 理事、監事の改選について

監事 1名	第3号議案 平成28年度の収支補正予算について 第4号議案 平成29年度の事業計画及び収支予算について
-------	--

#### 4 実施事業

##### 1 事業所名

- (1) 岡山県健康の森学園障害者支援施設 定員 35名
- (2) 岡山県健康の森学園就労継続支援事業所 定員 20名
- (3) 健康の森学園共同生活援助事業所 定員 49名
- (4) 健康の森学園相談支援事業所
- (5) 健康の森学園短期入所事業所 定員 3名

##### 2 職員状況（嘱託医、GH世話人及び生活支援員含まず）

区分	正規職員	常勤臨時職員	非常勤臨時職員	備考
施設長		1		
管理者	2			
サービス管理責任者	4（兼務2）			管理者兼務2
相談支援専門員	1			
生活支援員	2	4		
職業指導員	2	1	1	
就労支援員	1			
目標工賃達成指導員	1			
看護師	1			
栄養士		1		
事務員	1	1	1	
農場作業員			1	
宿直員			3	
障害者自立支援員	1			新見市へ出向
	14	8	6	合計28名

## 5 業務執行状況

### 1 利用者支援の充実

#### (1) 生活技術の向上と労働意欲・社会性の育成

- ・洗濯、掃除、入浴、整理整頓等の生活技術について、毎日30分程度の支援を実施した。その結果、以前に比べて声かけが少なくてもできる利用者が増えている。
- ・買い物訓練を実施して生活に必要な衣類等を自分で購入する練習を行い、地域生活に向けて自分の趣味に応じた衣類を現金を使って買うことができた。
- ・毎月2回の学習の時間の中で、社会生活に必要な知識(性教育、社会ルール、安全、食事マナー、歯磨き等)の支援を行った。
- ・年間を通して269日間の作業訓練を実施し農畜産物の生産販売をとおして、労働習慣・労働意欲、責任感、整理整頓等の就労に必要な適応訓練を図った。その結果、毎月一人当たり平均で農産・園芸班では13,941円、畜産・果樹班(自立訓練)では4,729円、畜産・果樹班(就労継続B)では7,612円、林産・家事生活班(就労継続B)では23,711円の工賃を支給した。
- ・林産・家事生活班では、昨年に引き続き全農乾椎茸品評会において林野庁長賞を受賞した。
- ・畜産・果樹班の作業工賃の向上を図るために、岡山県森林研究所及び哲西栗生産組合と連携して哲西栗の苗50本を植樹した。
- ・就労を目指して職場実習を繰り返し行い、その結果一般企業に1名、A型事業所に5名、B型事業所に4名が就労した。
- ・外部講師(元天満屋教育担当者)による接遇マナー講習会を開催して、社会人としての礼儀作法や言葉遣いについて知識を深めた。

#### (2) 余暇の充実

- ・障害者スポーツ大会の陸上競技では27名が参加して、金メダル4個、銀メダル8個、銅メダル6個を取得した。またフライングディスクでは12名が参加して、金メダル5個、銀メダル4個、銅メダル3個を取得した。
- ・第1、3、5の土曜日の午前中に茶華道、スポーツ、音楽、手芸、芸術、のサークル活動を実施して、余暇の充実に向けて経験の拡大につなげた。
- ・休日外出では買い物やカラオケができるように支援した。また、宿泊学習(京都)と日帰り学習(鷺羽山)では、社会見学とともに公共施設の利用マナーについて経験を深めた。

### (3) 地域生活への移行

- ・合計10カ所のグループホームを運営し、月平均48名の利用者の地域生活支援を行った。
- ・「すずらんハイツA」「すずらんハイツB」「あじさいハイツ」「はびねす」の利用者に対して、生活支援員3名を配置して生活支援の充実を行った。
- ・「西方ハイツ」の利用者2名に対してサテライト支援を行い、アパート生活継続のための生活支援を行った。
- ・グループホーム利用予定者に対して宿泊や市営バスの体験利用を行い、地域生活に向けた支援に努めた。
- ・世話人連絡会議や生活支援員会議を毎月開催して、利用者の生活状況について報告を受けるとともに、安全面・健康面・精神面での共通理解を行った。
- ・通所利用の市営バスに生活支援員が定期的に同乗して、乗車中の安全や一般乗客への迷惑がないように支援した。また、休日においては地域行事への参加など余暇支援を生活支援員の付き添いで行った。

### (4) 人権の擁護

- ・保護者と利用者が記入した施設利用アンケート結果を職員に配布して支援活動の参考とした。また、第三者委員と利用者との個別面談会を設定して、職員に相談できにくいことについて第三者に相談できる機会を用意した。
- ・サービス向上委員会において、職員の利用者に対する人権侵害の防止について、セルフチェック表により自己認識を深めた。

## 2 事故防止への取り組み

- ・定期健康診断を2回、内科検診を2回、歯科検診を1回実施し、利用者の健康管理に努めた。
- ・毎月1回、火災や地震を想定した避難訓練を実施した。また、毎月10日を安全点検の日として危険箇所の点検と修繕を行った。
- ・不審者対策として、正面玄関と裏門に関係者以外立ち入り禁止の表示を行うとともに、施設寮舎に防犯用のセンサーライトを設置した。
- ・安全マニュアルを整備して緊急時の対応についてさらに認識を深めた。
- ・消防署職員を講師に迎えて心肺蘇生法研修を行った。また、行方不明や不審者への対応訓練を実施して緊急時に備えた。

### 3 職員研修の充実

- ・県内外の研修会に参加させて、福祉情勢や他施設の状況についての研修を深めた。また復命後は資料回覧と報告会を行い共通認識を図った。
- ・県障害福祉課職員を講師に迎えて障害者差別解消法について研修を行い、障害者差別の防止に努めた。
- ・毎月1回、班会議とケース会議を開催して、作業面と生活面における支援について共通認識をすることができた。
- ・岡山県労働基準協会より講師を迎えて、農作業中における安全作業講習会を行い事故防止に努めた。

### 4 施設会計の安定

- ・日中活動の定員合計55名に対して月平均で50.6名を、また夜間の定員35名に対して月平均で32.4名の支援を毎月行った。
- ・利用期限のある利用者に対しては、利用期限終了までの利用計画を基にして支援を行った。
- ・出身の支援学校を訪ねて本人の現況報告と合わせて、今後の利用案内を行った。

### 5 その他

#### (1) 地域との連携

- ・新見市障害者地域活動支援センター（ほほえみ広場にいみ）に、障害者自立支援員として1名の職員を出向させ、在宅生活者と家族の支援を実施した。
- ・短期入所事業と日中一時支援事業の指定事業所として、短期入所事業では延べ48名を日中一時支援事業では延べ41名を受け入れて、学校の休業中における本人及び家族への支援を行った。
- ・相談支援事業では、福祉行政、支援学校、保健師、福祉事業所等と連携をとりながら、新規利用契約児・者数が37名で、合計793名の支援を行った。
- ・県内の大学生を対象にして施設実習者の受け入れを積極的に行い、知的障害者の支援の実際について体験してもらった。
- ・アンテナショップ「森のおみせ」を毎週水曜日に開店して、農畜産物の販売とともに利用者の学習の場とし地域住民との交流を図った。
- ・哲多町すずらん祭り、JA阿新納涼祭等の地域行事に参加して、地域住民との交流を深めた。また新見福祉フォーラムや障害者週間街頭キャンペーンに参加して、他施設の利用者とともに発表や販売を行った。

・健森応援団活動の一環として、ボランティアと施設利用者による椎茸の植菌作業、哲西栗の植え付け、キムチづくりを行い、施設利用者との交流を行った。

・哲多町文化祭に、施設利用者の作品を出展して、一般住民の方に見ていただき利用者の様子について知ってもらった。

## (2) 保護者等との連携

・定期的に保護者会を開催して施設の状況報告を行うとともに、給食試食会や保護者作業日を設定して、現状について保護者の方に知ってもらった。

・学期に1回程度支援計画の見直しについて、個別懇談会を実施して保護者の気持ちを確認したうえで支援を進めた。

・保護者役員会を組織して、保護者会活動(保護者総会、夏の集い計画、研修旅行、施設設備面)のことについて希望や意見を聞いた。

・双葉会(学校と施設の保護者会)の主催行事である夏の集いに全面的に協力して、施設と学校の保護者、職員、園生及び同窓生同士の交流を図った。